A-01-3

鍼治療による脳血流量を Functional SPECT にて測定した重症頭部外傷後遷延性意識障害の１例

[1]木沢記念病院・中部療護センター
[2]木沢記念病院・中部療護センター医療技術部
[3]岐阜大学大学院医学系研究科再生医科学循環病態学第二内科
○松本淳[1,3]，鈴木雅雄[1]，奥村竜児[2]，福山誠介[2]，兼松由香里[1]，加藤貴之[1]，岡直樹[1]，奥村歩[1]，篠田淳[1]

【緒言】

近年，鍼治療により，意識障害の改善が得られる場合があるとの報告が国内外で散見されるが，鍼治療が脳血流に与えるダイナミックな影響を検討した報告は少ない．今回，我々は瀰漫性軸索損傷（DAI）により遷延性意識障害を呈した症例に対して鍼治療を行い臨床症状の変化について検討し，さらに鍼治療施行中の脳血流の変化を Functional SPECT により検討した．

【方法】

症例：29 歳男性．診断：DAI，遷延性意識障害．

現病歴：H17 年 9 月に受傷．遷延性意識障害に対して H18 年 11 月より鍼治療を開始した．

方法：①鍼治療は週 2 回 4 ヶ月間継続し臨床症状の変化を観察した．②Functional SPECT は以下のプロトコルを実施した．水溝穴に 3 分間の鍼刺激を行い，鍼刺激開始 1 分後にトレーサー（99mTc-ECD）を静注し， Patlak plot 法にて定量し，安静時脳血流量との差を 3DSRT を用いて解析し,Functional SPECT 画像を作成した．

【結果】

①鍼治療の併用開始後から，開眼の持続や追視の明瞭化，鍼治療直後の筋緊張の軽減などの反応がみられた．

②Functional SPECT では，大脳皮質にびまん性に脳血液量の１５～２０％の増加を認めた．平均大脳血流量（mCBF）は，安静時 30.99ml/100g/min に対して，鍼刺激時は，35.80ml/100g/min と増加した．

【まとめ】

遷延性意識障害例において，鍼刺激による脳血流量の増加が確認された．この結果は，鍼治療による脳血流増加が頭部外傷後遷延性意識障害患者の治療の一助となる可能性を示唆するものである．